

<Comments>

2007年春に始まった本曲集の制作ですが、最初の頃は割にハイペースで作品を書いていた。いま振り返ると、“無知がゆえ”のひとつのプロセスだったかとも思われます。とはいえ、初期の作品を気に入っていないかといえそうでもなかったりします。音楽言語が稚拙な分、面白さや逸脱があったりで今となればそれも良い体験だった気がします。制作が進むにつれ、なかなかメロディや発想が浮かばず、独り医局（当直中）で悶々とした夜を送っていました。私は“天から音楽が舞い降りてくる”タイプではないため、裸足になって踊ってみたり、仮想オーケストラを頭に浮かべ指揮者の真似事（Air Conductor）を試みたりと、とても他人様にはお見せできる姿ではありませんでした。それでもなんとか、完成まで漕ぎ着けることが出来ました。ほんとうはストリングスや打楽器を入れ、アレンジ版〈dis-Piano “ver.GORGEOUS”〉という構想もあったのですが、エネルギー切れのため、ボツになってしまいました。

2011年春、段々と終わりが見えてきたので、次はより良いCD作品にしようと、Desk Top Music（PCで作る音楽）の情報収集を始めました。それまでは楽譜ソフト（Music Score Pro2）で書いた楽譜をmidi fileで保存し、それをAudio Data（wave file）に変換し、CD-rに焼いて聴いていました。ところがPCに内蔵された基本音源は、かなり貧相な音質であるため、最終形態の“作品”とするには抵抗がありました。そこで、あれやこれやと、DAWソフト（データ化した音情報を加工・編集する）や音源ソフトについて色々勉強してみました。しかし、調べるうちに「自分には無理だ」と思うようになりました。幾つかの理由はありましたが、結局は「音を聴き分ける耳に自信が無い」というのが最大の理由でした。選ぶ音源の音色、音の強さ・弱さ、テンポ等の音楽的コントラスト、エコーやリバーブを用いた音響処理、等、多くの課題がありました。せっかく最初で最後の(?)作品集を作っても観賞音楽として後悔を残す作品になっては、その意味が半減してしまう。「さてどうしよう？」という日々が続きました。この時、一人の知人が脳裏をかすめるのですが、その彼に音源化作業を託しました。それはまた後ほど、明らかに致します。取り敢えずこれらデモ音源をお聴きください。

2011年10月、クマモト ショウジロウ

Tr 01 ; New Moon (2007.03.15.)

初めて作ったピアノ曲、また作業は夜進むということで〈新月〉と付けました。拍子のズレやサティっぽいところもあり、今でも結構気に入っています。

Tr 02 ; Night & Marble (2007.03.30.&05.18.)

音や和声的にひねくれたものに関心を寄せていた時期です。パソコンでは、転調もクリックひとつで可能なので幾つか入れてみました。桜がちょうど満開から散りそうな季節でした。全曲書き上がった後、元々は2つの曲でしたが、コラージュのように張り合わせて一つにしました。

Tr 03 ; 遠い日の午後 〈toi-hino-gogo〉 (2007.08.10.)

メジャーセブンスの響きを中心に軽い感じで、〈遠い日〉とは過去か未来か？いつかゆっくり紅茶でも飲みながら聴け（弾け）たら良いと願いつつ、書いてみました。

Tr 04 ; Fenestra (2007.11.06.)

担当の患者様が風景画を描いていてそのタイトルが「フォント・シャネル」というものでした。いつも見慣れたはずのその窓(fenestra)から切り取られた景色がフランスの田舎の風景のように感じられました。勿論フランスなど行った事はないのですが、その彼のセンスに一本取られた事を思い出します。

Tr 05 ; Invisible Snow (2007.12.18.)

この頃は暖冬で雪を見ることも少なくなっていました。しかし、年内と年明けでは“雪”の風情は決定的に異なるものだと思っています。この曲では孤独な夜更け（当直中）に、確かに見た（ような気がした）、“冷たいけれども優しい雪”をイメージしてみました。

Tr 06 ; Dominish (2008.02.15.)

当初はピアノ協奏曲(カレーの CM での中村紘子)のような音楽を想像しつつ創作を始めてみたのですが、出来上りは、アナログ時計の秒針が刻むような、ドミノ倒しのような音楽になりました。

Tr 07 ; ハルイズム 〈Haru-ism〉 (2008.05.05.)

歳を取るたびに春の訪れが嬉しく感じられるのは私だけでしょうか？

Tr 08 ; tabledance (2008.06.19.)

若干やけくそな雰囲気は否めません。しかし最初の4小節作ってしまったら後へは引けない！

Tr 09 ; Möbius Blue (2008.07.30.)

前作を払拭すべく“静かで力のあるものを”と考えていました。結果は〈宇宙戦艦ヤマトは地球へ戻ってきたけど、そこには何故か絶望しかなかった〉というイメージになったような気がします。丁度この頃は、私の周囲にもあまり面白いとはいえない出来事が幾つかあった日々でした。

Tr 10 ; Silent Echoes (2008.11.24.)

イントロがテクノな感じ(円盤型 UF0 が飛んできた!)ではないかと思うのですが、いかがでしょうか？何故こう始まってこんな風に終わるかは謎です。エンディングは、中国の壮大な歴史ロマン映画のエンドロールのイメージで…。

Tr 11 ; Re-(c)ession #9 (2009.02.23.)

年末から不景気な話題ばかりがニュースで流れていました。それとこの曲は全く関係が無いのですが、曲中のヒステリックなムードは、この頃の自分の気分だったのかもしれない。

Tr 12 ; Water for A MAN (2009.05.17.)

G. W. に清志郎が亡くなったり、何やかやで…。色んなことが穏やかに過ぎていくことを願って。

Tr 13 ; Nine plus Five (2009.11.30.)

慢性的なスランプ状態が続いていました。曲集中一曲位は連弾風のものを書いてみたかったのですが、実際は音域が重なってたりで1台のピアノでは弾けそうにありません。MIDI (自動演奏) ピアノがあればぜひ弾かせてみたいと思います。タイトルは当初14曲目収録の予定だったので。

Tr 14 ; DOTAGE II (2010.03.11.)

タイトルは“老いぼれ”や“溺愛”の意。退廃的で他愛なき物語をイメージし、ポルカや古いサーカス音楽の感覚で。この頃ドラマ〈不毛地帯〉に嵌り Tom Waits をよく聴いていました。因みに彼のアルバム〈Rain Dogs〉は最高です。御一聴あれ！

Tr 15 ; Else If (2011.03.12.)

タイトルはコンピュータ言語ということですが、私的には意味不明！ただ、響きが良かったので。

Tr 16 ; La Corte (2010.09.22.)

この年の春、仕事がらみで福岡へ出かける事があり、途上に立ち寄ったイタリアンレストランの名前から曲のイメージをインスパイアされました。CDジャケットは、その場所を携帯カメラで撮影し、後に地元のカメラ屋さんで自身を撮影し、合成したものです。

Tr 17 ; two complex (2007.06.08.&2011.09.12.)

この曲は制作初期の頃に作っていたのですが、いろいろ見直しをする段階で一旦ボツにしました。その理由は、初めはドリフのカトちゃんのような音楽だったのです。しかし〈2つの複合体〉とあるように又々やっしまいました得意の(?)別々の曲の合成。ファンク・ブルース・ジャズ・クラシック、幾つかの音楽要素を感じつつノット感で聴いてい頂ければ本望です！

Tr 18 ; Another Moon (2010.10.18.)

本CD製作途中に半分程出来ていました。最初が〈New Moon〉とくれば最後はこれだろう！とその時点で決めました。この作業を最後までやり終えたことを周囲の方々に感謝です。

Tr 19 ; Thema for KURO-chan (2009) & Tr 20 ; Thema for P-chan(2008)

この2曲は、“dis - Piano”本編とは違う Bonus Tracks。両者とも私が眼の中に入れても痛くない(表現が古すぎ!)と愛情を注いでいる愛猫です。先住猫のPちゃん(♂)は、ある夏の日、我が家へ勝手に遊びにきたクロちゃん(♀)を威嚇すべく激しく鳴いていたのですが、結局彼女は居ついてしまいました。彼らに曲をプレゼントできてとても幸せな気分なのです。